

# 交流活動は多彩に、提携は強固に

高畠町の有機農業推進活動を背景に「食と農の町づくり」



農業体験合宿小屋「さと小屋みず穂」の前でアジア学院の研修生のみなさんと渡部夫妻（中央）



杭掛け自然乾燥の脱穀作業

農業体験に来た千葉県八千代市八千代台西中学校の生徒さんと妻の渡部美佐子さん（左端）



## 雑草対策と課題

1973年の高畠町有機農業研究会の発足に参加以来、有機農業に取り組みはじめ、38年目の農作業も終盤を迎えています。

今年の作柄は、米も野菜もまずまずの収量を確保できました。米は、9月の残暑による影響でコシヒカリ等の晩生種で米粒の充実度不足がみられたものの、わが家の肥沃な粘土質の土に助けられ、450kg/10aの収量がありました。野菜は年間100種類ほどを栽培していますが、温暖化によると思われる新しい害虫問題、さらに放射能による堆肥移動禁止等で混乱したこともありましたが、10月の温かさに助けられ順調な生育を示しています。

水田の雑草対策は、今も最大の課題です。有機農業開始から25年くらいは、篤農家の鉄則である「草を見ずして草を取る」ことを実践すべく、ひたすら手押し除草機による対策をやってきました。しかし、体力の低下とともに、他の除草対策が必要となり、米糠散布、合鴨放飼等を行ってきましたが、いずれも種々な課題があり断念しました。

米糠散布は還元状態を作り、逆に「こなぎ」の発生を助長し、また、合鴨（真鴨も）では、イタチ、たぬき、はくびしんによる被害を受けてしまいました。

その結果から、3年前から実施しているのが、2度代播とチェーン除草、動力除草機を組み合わせた方法で、効果は大きいと感じています。チェーンは、普通乗用車並の太さが必要であり、それを引っ張る馬力のある機械が必要となります。その課題の対策として、すき間なく並べた竹ぼうきの様な物で代替できないかと考え、来年からこの方法を実施予定です。

## 「まほろばの里農学校」の卒業生など80名以上が定住

長年の交流活動は、お互い年齢を重ねたこともあり、回数は減ってきているものの、30年以上の実績で積み上げてきた提携関係は、強固なものがあると確信しています。現在実施しているのは、9月の収穫直前の現地交流会と2月に首都圏に向いての作付け会議です。

高島町には、1990年に開設した「たかはた共生塾」と1997年発足の「高島町有機農業推進協議会」があり、町・農協も加わった幅広い交流事業が、毎年実施されています。中学生・高校生の農業体験の受け入れは、10年以上に及びます。

千葉県八千代市八千代台西中学校他3校の生徒を受入れ、民泊・農業体験・町内観光をしています。神奈川県立神奈川総合高校生約40名は、3泊4日で民泊による農業体験のほかに地元高校との交流を組み込んでいます。大学では、慶応義塾大学の金子勝教授のゼミの受け入れ、東京農業大学環境コミュニケーション研究室大久保武教授との交流及び農大祭における「高島、農大ネットワーク」で野菜等の出店、筑波大学スポーツ社会学松村和則研究室の援農など、多数実施しています。

海外の人たちとの交流としては、アジア学院研修生が、東日本研修の拠点として10泊11日でさと小屋「みず穂」に合宿し、町内外の実践者に学び、私共夫婦も半日ずつ講義を持つことになっております。交流活動の中でも、20回を数える「まほろばの里農学校」は、前期・後期合わせて8日間実施しており、その卒業生を中心に町内に80名を超える方々が定住しています。

また、2001年に建立された「一楽照雄先生記念碑」をきっかけに、毎年「一楽思想を語る会」が実施され、そこに参加し、有機農業運動の原点を確認し合い、提携関係構築によるさらなる運動充実拡大の糧にしています。

こうした背景により、2008年には「たかはた食と農の町づくり条例」が制定されました。その柱は、①自然環境に配慮した農業推進、②安全安心な農産物の生産、③遺伝子組み換え作物の自主規制です。

今、TPP交渉参加を進めようとする「亡国」につながる動きがあり、遺伝子組み換え作物の大量輸入等、食の安全が脅かされようとしています。経済的価値観のみで判断し、命を育む食料、農業、農村を危機に陥れるこの交渉には、断固反対です。

後継者不足、高齢化、有機農業栽培技術の平準化等々、課題は多いが、今日までの実践を糧にして、多くの仲間と共に有機農業に邁進します。

### 渡部務(わたなべつとむ)プロフィール

1948年生まれ。水田、野菜、豆類、啓翁桜(冬期出荷花木)養鶏。73年に有機農業を始めると同時に、同年発足の高島有機農業研究会に参加し、事務局長、会長を歴任。その後、日本有機農業研究会の幹事に就任した。88年に高島町農業協同組合理事。94年に農協の合併により山形おきたま農協の理事に就任。

現在、山形おきたま農業協同組合経営役員会副会長。高島町有機農業推進協議会副会長(\*1)。たかはた共生塾副塾長(\*2)。高島町有機農業提携センターの米係。

\*1 高島町有機農業推進協議会(事務局は高島町農林係)

●主な構成団体／「高島町有機農業提携センター」「上和田有機米生産組合」「農業法人興農舎」「山形おきたま高島ライスセンター」外8団体、約800名

●主な活動／遺伝子組み換え作物禁止運動・栽培技術の実践交流・高島産農産物のブランド化推進 等

\*2 たかはた共生塾(熟生 現在、県内外も含め約80名)

●主な活動／公開講座(年2回)町農協との共催、その時の課題をテーマにし専門家を招く。／まほろばの里農学校(前期6月、後期9月)、「有機農業を通して食生活・環境・農業 農村に学び、生き方を考える」講師は塾生。